

本を手にする楽しみ

10/20~10/27 附属図書館除籍資料のブックリユース（古本市）を実施したところ、600冊を超える図書が新しい持ち主のもとで再活用されることになりました。このイベントが人と本を結ぶ一助となり、さらに図書館を活用していただけるきっかけになれば幸いです。

読書の秋、まずは図書館で本を手に取り、美味しい読書を味わっててください。



ブックリユース（古本市）の様子



2020年11月開館予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

●…休館日 ●…閉館日（館内整理日・学内行事日等） □…開館日

開館時間…9:00~17:00 臨時の休館・時間変更等はHP等でお知らせします。

附属図書館オリジナルWeb 香川短大HP→附属図書館→附属図書館オリジナルWeb

<http://lib.kjc.ac.jp/csp/carin/hp/CARhpTOP.csp>

図書館通信

おすすめの本



『日本文学全集 13』
夏目漱石 三四郎
918/N/13

『三四郎』 夏目漱石

私はあまり本を読むことが好きではありません。理解するのに時間がかかるからです。しかし、1冊だけ、中学生の時の宿題で仕方なく読み始めながらも、心に残っている本があります。それは、夏目漱石の「三四郎」です。

夏目漱石の本は難しく、最初は10行読んだだけで眠くなり、良い睡眠導入剤でした。しかし、読み進めていくと、なんとなく惹きこまれ、そして最後には私の心にあるフレーズが残りしました。それは、「stray sheep（迷える羊）」です。中学生ながら、「三四郎」に登場する2人の関係を示す重要な言葉ということは理解できるのですが、そのフレーズが私の心にじわじわ響きました。本当に2人の関係だけを指しているのか……。中学生の私にはわかったような、でも何かモヤモヤするものが残りしました。もしかしたら、今の自分より中学生の私のほうが、その意味を深く「感じて」いたのかもしれない。遠く忘れてしまった気持ちを思い出すため、これを機会にもう一度読み返そうと思います。このフレーズが気になった皆さんも、読んでみませんか？

お知らせ



私が選ぶ図書館の100冊 2020

11/16（月）～11/27（金）まで図書館で「私が選ぶ図書館の100冊 2020」を行います。

これは、書店からお借りして展示した本の中から読みたいと思った本、これ好き♡と思った本を投票してもらい、上位100冊に入った本を図書館が購入するという素敵な企画です！ぜひ、図書館の本選びに参加してください！！



2020.11.1 発行(No.55)

香川短期大学附属図書館

子ども学科 第1部
小松陽子 先生